シラバスデータ		
科目名	視能矯正学実習Ⅱ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視能矯正分野における、診断と経過観察に必要な検査を習得する。
学年	2学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期・後期	大型弱視鏡・プリズムによる9方向眼位検査、 眼球運動検査、融像検査、4プリズム基底外方試験、マドックスを用いた検査の正常と異常を学ぶ。
授業回数	62回	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	各検査の対象・検査手順を理解し、正常と異常を判断できる。
授業担当者	鈴木　ほまれ 村上　綾	
実務家教員	○	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版（文光堂）、視能矯正学　第3版（金原出版）、眼科検査ガイド　第3版（文光堂）	
評価方法	定期試験（筆記試験・実技試験）で評価する	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1・2	眼位検査 （講義・練習）	大型弱視鏡・プリズムによる眼位検査（第一眼位）の復習と検査練習
3・4		
5・6	9方向眼位検査 （講義・練習）	Aグループ：大型弱視鏡（9方向眼位） Bグループ：遮閉試験（9方向眼位）
7・8		
9・10		ペアで互いの検査を行う。
11・12		
13・14	融像、抑制検査 眼球運動検査 （講義・練習）	Aグループ：融像幅の測定（プリズム）、4プリズム基底外方試験 Bグループ：9方向眼位写真、診断的むき眼位
15・16		
17・18		ペアで互いの検査を行う。
19・20		
21・22	AC/A比の測定 マドックス検査 ガンマ角検査 （講義・練習）	Aグループ：AC/A比 Bグループ：ガンマ角（マッドクス正切尺、大型弱視鏡）、マドックス検査（Double maddox test など）
23・24		
25・26		ペアで互いの検査を行う。
27・28		
29・30	実技試験	実技試験にて実技の確認、講評
31	中間試験／解答解説	筆記試験にて知識の確認／解答解説
32・33	注視野 HESS赤緑試験 （講義・練習）	Aグループ：注視野 Bグループ：パークス3ステップテスト
34・35		
36・37		ペアで互いの検査を行う。
38・39	パークス3ステップテスト 網膜対応検査 （講義・練習）	Aグループ：HESS赤緑試験 Bグループ：網膜対応検査
40・41		
42・43		ペアで互いの検査を行う。
44・45		
46・47		
48・49		
50・51	立体視検査 （講義・練習）	立体視検査
52・53		ペアで互いの検査を行う。
54・55		
56・57		
58・59		
60・61	実技試験	実技試験にて実技の確認、講評
62	定期試験／解答解説	筆記試験にて知識の確認／解答解説

シラバスデータ		
科目名	関係法規	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視能訓練士業務を行う上での関係法規を知ることで、現場で活躍できる人材を育成する。
学年	2学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期・後期	視能訓練士法を中心に、視能訓練士業務に必要な関係法規（角膜移植法、臓器移植法、学校保健法など）を学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	視能訓練士として業務を行う際に関係する法律について、説明、実践できる。
授業担当者	鈴木　ほまれ	
実務家教員	○	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版（文光堂）、専門医のための眼科診療クオリファイ眼科診療と関係法規（中山書店）	
評価方法	定期試験（筆記試験）で評価する	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	医療関係者の法	・視能訓練士法
2		・視能訓練士法
3		・視能訓練士法
4		・診療録の記録方法と開示請求
5	角膜移植と臓器移植法	・角膜移植の関連法　・眼球摘出の条件と制限　・アイバンクの役割　・脳死と臓器移植
6	眼科と公衆衛生に 関する法律	・母子保健法　・学校保健安全法　・感染症と予防衛生法規
7	コラボ授業 （2TW2CW）	視能訓練士の役割と意義
8	視能訓練士の役割 （イギリス編）	・イギリスの視能訓練士に聞く視能訓練士の役割
9	医療保障制度	・老人保健法と高齢者医療確保法
10		・眼科領域の保険診療（検査・処方・手術）
11		・斜視弱視と児童福祉法
12		・高齢者の医療の確保に関する法律（旧　老人保健法）
13		・視覚障害者と身体障害者福祉法
14	今後の視能訓練士	・視能訓練士とタスクシフト
15	定期試験・解答解説	筆記試験にて知識の確認・解答解説

シラバスデータ		
科目名	視能訓練学Ⅰ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	感覚系検査の種類、原理、評価を理解し、実際の検査に繋げる。
学年	2学年	
コース	―	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	網膜対応検査を両眼中心窩、中心窩と道ずれ領の関係性を評価する方法に分類して学ぶ。 立体視検査を両眼分離方法から、その種類、特徴、検査方法、評価方法を学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	網膜正常対応と網膜異常対応を理解し、適切な検査の選択と評価ができる。 立体視検査の原理と評価方法を学び、患者に合わせた検査を選択できる。
授業担当者	鈴木　ほまれ	
実務家教員	○	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版（文光堂）、視能矯正学　改訂第3版（金原出版）、眼科検査ガイド 第3版（文光堂）、 視能矯正マニュアル 改訂版（メディカル葵出版）	
評価方法	定期試験（筆記試験）で評価する	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	復習	パナムの融像感覚圏 正常両眼視の成立条件
2	網膜対応検査	網膜対応の種類と定義 正常網膜対応と網膜対応異常を理解する。
3		網膜対応検査の種類と評価 ・バゴリニ線状レンズ試験
4		網膜対応検査の種類と評価 ・バゴリニ線状レンズ試験
5		網膜対応検査の種類と評価 ・赤ガラス試験　・ワース4灯試験
6		網膜対応検査の種類と評価 ・陰性残像試験　・陽性残像試験
7		網膜対応検査の種類と評価 ・残像ひきとり試験　・両眼ビズスコープ試験
8		網膜対応検査の種類と評価 ・位相差ハプロスコープ試験　・ポラテスト　・プリズム順応試験
9		網膜対応検査の種類と評価 ・大型弱視鏡
10	立体視検査	立体視検査の種類 ・分離方法と図形
11		立体視検査の種類と評価 ・実在立体視
12		立体視検査の種類と評価 ・半円柱回折格子、セクター、鏡筒を用いた検査
13		立体視検査の種類と評価 ・偏光眼鏡を用いた検査
14		立体視検査の種類と評価 ・赤緑眼鏡を用いた検査
15	定期試験・解答解説	筆記試験にて知識の確認・解答解説

シラバスデータ		
科目名	医療安全	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	医療事故の防止と対策や救急対応と処置について、実際の臨床現場での事象を交えて学ぶ。
学年	2学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期・後期	①インシデント・アクシデントや医療事故や過誤、院内感染について学ぶ。 ②アナフィラキシーショックや心肺蘇生法について学ぶ。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	1単位	インシデント・アクシデントのレベル分類について理解する。 医療事故と医療過誤の違いについて理解にする。 院兄感染を引き起こす原因と対策について理解する。 スタンダードプリコーションについて実践できるようにする。 アナフィラキシーショックに対する治療が分かるようにする。 一次救命措置と二次救命措置の違いについて分かるようにする。
授業担当者	星野　貴大	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版（文光堂） 標準眼科学　第14版（医学書院）	
評価方法	期末試験による総合評価とする。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	安全管理	インシデントとアクシデント、医療事故と医療過誤の違いについて学ぶ。
2		院内感染の原因と予防策について学ぶ。
3		院内感染の原因微生物を感染経路別に学ぶ。
4		場面を想定した予防策について学ぶ。
5	救急対応と処置	アナフィラキシーショックの診断と分類、治療について学ぶ。
6		心肺蘇生法について学ぶ。
7	期末試験と解答解説	筆記試験と解答解説を行う。
8	まとめ	国家試験の解答解説を行う。

シラバスデータ		
科目名	外国語(英語)	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	病院内で使用されると思われる、外国語を学び患者とコミュニケーションをとれるようにする
学年	2年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	臨床で使用する外国語をみにつける
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	基本的な単語を使用した簡単な会話を身に着ける 医療会話を学び、検査に関わる会話を覚える
授業担当者	小林昌人	
実務家教員		
使用テキスト 参考文献	English for Manners and Hospitality（鷹書房弓プレス）	
評価方法	授業態度、出席率、テストによる総合評価とする。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	自己紹介	英語で簡単に自己紹介できるようにする
2	相手を知る	眼科で受け付け対応ができるようにする
3	病院案内	病院内の案内ができるようにする
4	身体の部位と痛み	身体の部位の名称を覚える 身体の痛みの説明ができるようにする
5	病気と症状	病気と症状が伝えられるようにする
6	既往歴	病気の名称を覚え、既往歴を尋ねることができるようにする
7	患者への指示	診察や検査時に患者に指示をつたえることができるようにする
8	バイタルサイン	バイタルサインを測定できるようにする
9	処置	患者に処置の説明ができるようにする
10	眼科での検査	眼科で患者に検査を説明できるようにする
11	会計	医療費を説明できるようにする
12	薬について	薬について説明できるようにする
13	眼の検査	眼科検査で使われる単語を覚える
14	視力の検査	視力検査の流れが説明できるようにする
15	テストと解説	テストと解説を行う。

シラバスデータ		
科目名	臨地実習Ⅱ（学内）	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	臨地実習のルールや実習記録の書き方を確認することで有意義な臨地実習を送れるようにする。
学年	2学年	
コース	―	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	・「臨地実習の手引き」読み合わせ ・実習記録の書き方
授業回数	2回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	臨地実習Ⅱ（学外）を含めて40時間1単位	臨地実習での留意点、目標を自分自身の言葉で説明できる。
授業担当者	村上　綾・鈴木　ほまれ	
実務家教員	○	眼科クリニック・総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	臨地実習の手引き	
評価方法	臨地実習Ⅱ（学外）指導者の評価と課題提出（模擬実習記録）の総合で評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	実習前教育	「臨地実習の手引き」の読み合わせと電話の掛け方を確認する。
2		動画から実習記録の書き方と見学の視点を確認する。

シラバスデータ		
科目名	眼科薬理学Ⅰ	
年度	2025年度	授業目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・基本的な薬剤の作用機序と効果、および副作用を理解し、臨床に役立てる。 ・簡単な実験・体験を通じて薬理学のイメージを育み、患者さんへの対応に役立てる。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	・疾病の治療には、手術だけではなく、薬物治療、判定のための検査薬も用いられる。この講義では、視能訓練士として必要な基本的な薬剤の作用機序と効果、及び副作用を理解する
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	・視能訓練士において業務上必要な薬理学の基礎用語の理解できるようになる。 ・点眼薬を理解し、医薬品に添付される添付文書が理解できるようになる。 ・眼科治療薬、検査薬、機能訓練で使用される薬の薬理作用、副作用、使用禁忌について理解する
授業担当者	永野　繁光	
実務家教員	○	総合病院・調剤薬局における薬剤師としての実務経験
使用テキスト 参考文献	点眼薬クリニカルブック第2版（金原出版株式会社）	
評価方法	授業態度、出席状況及び学期末試験の成績で総合評価する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	主な内容
1	薬理学総論	薬理学とは、歴史、ホメオスタシス、医薬品の定義、医薬品分類、医薬品法令等、主作用と副作用
2	基礎薬理学①	薬理作用・作用機序、単位、分配係数、細胞、細胞膜、脂質二重層、薬物代謝経路、血中濃度
3	基礎薬理学②	神経細胞、自律神経とは、末梢神経とは、自律神経の作用、添付文書
4	散瞳薬・縮瞳薬	点眼薬、受容体、自律神経薬物の作用機序
5	緑内障①	緑内障の定義、緑内障治療ガイドライン第5版
6	緑内障②	緑内障治療薬（PG関連薬、β遮断薬、α_1遮断薬、 他）
7	白内障・黄斑変性	白内障治療薬、黄斑変性治療薬（抗VEFG薬共通）、局所麻酔薬
8	角膜保護薬	角膜保護薬、ドライアイ治療薬、温罨法（おんあんぽう）
9	抗炎症薬	炎症の定義、抗炎症薬（ステロイド薬・非ステロイド薬・酵素製剤）
10	抗アレルギー薬	免疫とは？、Ⅰ型アレルギー、抗ヒスタミンH_1受容体拮抗薬（第2世代）、免疫抑制薬
11	抗菌薬	感染の三原則、各種抗菌薬（セフェム、アミノグリコシド、マクロライド、ニューキノロン他）
12	抗真菌薬・抗ウイルス薬	眼科領域における抗真菌薬、抗ウイルス薬、クラミジア治療薬
13	消毒薬	消毒の定義、消毒の方法、各種消毒薬
14	手術補助薬・他	手術補助薬（催眠薬・鎮静薬・抗不安薬）、検査薬、Horner症候群、薬物中毒
15	定期テスト	定期テストと解答解説

※8コマ目に確認テスト（30分）、9-13コマまで小テスト（10分）を予定しています。

シラバスデータ		
科目名	人間発達学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	人間発達の正常過程を理解する
学年	2年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	ヒトの誕生から死に至るまで続く発達と変化を、解剖生理的、心理的な面などから、正常過程を理解した上で、視能訓練士として、対象者の理解をできるよう学習する
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	誕生から死に至るまで続く発達と変化を、理解できている
授業担当者	本多 祥子	
実務家教員	○	総合病院における看護師・精神保健福祉士としての実務経験
使用テキスト 参考文献		
評価方法	授業態度、出席率、テストによる総合評価とする。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	発達段階について	成長、発達、成熟の違い　、スキャモンの発達曲線
2	新生児・乳幼児について	原始反射、運動機能の発達、カウプ指数
3	児童期について	成長・発達に影響を与える要因、児童期の健康課題、社会性の発達
4	青年期について	身体的特徴、社会生活の特徴、思春期・青年期の健康課題、統合失調症
5	成人期について	成人期の発達課題、成人期に多い疾患、成人期の健康づくり
6	中年期について	中年期の発達課題、身体的特徴、精神的・社会的特徴
7	高齢期・老齢期について	高齢期・老齢期の発達課題、一次老化・二次老化・三次老化
8	高齢者の定義	老人福祉法、介護保険法、高齢者医療確保法、高齢化率、老性自覚
9	パーソナリティの変化	ライチャードの「老年期への適応の五つの型」、マズローの欲求階層説
10	記憶の分類	感覚記憶、短期記憶、長期記憶、知能（結晶性知能、流動性知能）
11	介護予防・健康寿命	サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム、筋肉貯筋
12	喪失体験	エリザベス・キューブラー・ロス、死の受容
13	死別への適応	グリーフ、グリーフワーク、グリーフケア、複雑性悲嘆
14	総括	復習、定期試験対策
15	試験と解答解説	試験実施、解答解説

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	神経眼科学		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	神経眼科の解剖基礎より疾患までを理解する。	
学年	2学年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	脳神経の構造と視路及び眼球運動経路の解剖・生理を理解し、視交叉より末梢の視路障害、核上性障害、視神経・外側膝状体・皮質障害に関して学習する。 対光反射の経路を理解し、主訴や検査より疾患へと繋げることができる。講義の中で、実際に瞳孔を観察し理解を深める。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	神経眼科の解剖基礎より疾患までを理解する。 対光反射の経路を理解し瞳孔においての疾患を理解する。 核上性疾患・核下性疾患を経路と共に理解する。 視神経疾患を理解する。	
授業担当者	星野　貴大		
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版（文光堂）、神経眼科学を学ぶ人のために 第3版（医学書院）、標準眼科学 第14版（医学書院）		
評価方法	出席状況および筆記試験の成績で総合評価する		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	復習	神経眼科の解剖基礎の復習を行う
2	瞳孔異常	瞳孔疾患について学ぶ
3		
4	眼球運動障害	核上性眼球運動障害の疾患について学ぶ （眼振・異常眼球運動含む）
5		
6		
7		
8		核・核下性眼球運動障害の疾患について学ぶ
9		
10	視神経・視路	視神経・視路疾患について学ぶ
11		
12	眼瞼	眼瞼異常をきたす疾患について学ぶ
13	眼窩	眼窩に異常をきたす疾患について学ぶ
14	全身疾患と神経眼科	全身症状を伴う疾患について学ぶ
15	筆記試験と解答解説	筆記試験と解答解説を行う

シラバスデータ		
科目名	生理光学実習Ⅱ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	生理光学的矯正を学習し、演習によって理論を理解し、測定技術を身につけることを目標とする。
学年	2年	
コース	―	授業全体の内容の概要
開講時期	前期・後期	実践に必要な生理学的検査他覚的屈折矯正、自覚的屈折矯正、レンズメーターなど生理光学的矯正を学習し、演習によって理論を理解し測定技術を身につけることを目標とする。
授業回数	62回	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	・自覚的屈折検査の理論を理解し測定することができる。 ・他覚的屈折検査の理論を理解し測定することができる。 ・レンズメーターで種々の眼鏡の測定ができる。
授業担当者	太田　陸 永井　理一郎	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学(文光堂)、屈折異常とその矯正(金原出版)、眼科検査ガイド（文光堂）	
評価方法	実技試験、筆記試験によって総合的に評価	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	1年次復習	生体計測・他覚的屈折検査・クロスシリンダー・乱視表・レンズメータ（単焦点）・調節機能検査
2		
3		
4		
5	検影法・レンズメータ （講義）	検影法・レンズメータ（多焦点）
6		
7		
8		
9	近見視力・小児視力 （講義）	近見視力・小児視力
10		
11	眼鏡処方・不等像視検査 （講義）	眼鏡処方（遠用眼鏡）・不等像視検査
12		
13		
14		
15	（実技） 検影法・乱視矯正 近見視力・レンズメータ 眼鏡処方・不等像視検査	ペアで互いの検査を行う。 ※常に眼科外来を想定しての実習となるため、言葉使い、患者説明等しっかり行うこと。 29コマ目開始時にレポートを提出（レポートが未提出の場合、実技試験は受験不可となります。） 実技チェック ①乱視表・クロスシリンダーによる屈折矯正 ②検影法・近見視力
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29	実技試験	実技試験を行う。その後講評。
30		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
31	筆記試験	筆記試験を行う。その後まとめ。
32	コンタクトレンズ処方 （講義）	コンタクトレンズ処方（ソフトコンタクトレンズ、ハードコンタクトレンズ）
33		
34		
35		
36	レフ視力（講義）	レフ視力
37		
38		
39		
40	眼鏡処方（講義）	眼鏡処方（近用眼鏡）
41		
42		眼鏡処方（遠近両用）
43		
44	【実技】 レフ視力 コンタクトレンズ処方 眼鏡処方	ペアでお互いの検査を行う。 ※眼科外来を想定しての実習となるため、常に言葉遣い・患者説明等しっかり行うこと。 実技チェック ①レフ視力 <u>60コマ目の開始時にレポート提出（レポート未提出の場合、実技試験の受験不可）</u>
45		
46		
47		
48		
49		
50		
51		
52		
53		
54		
55		
56		
57		
58		
59		
60	実技試験・講評	実技試験を行う。その後講評。
61		
62	筆記試験・解答解説	筆記試験と解答解説を行う。

シラバスデータ		
科目名	眼鏡光学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視能矯正に必要な眼鏡処方に関係する知識を学ぶ。
学年	2学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	眼鏡処方（成人・学齢期・乳児）、眼鏡処方（二重焦点・累進）、プリズム処方
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	症例に合わせた眼鏡処方ができる。 眼位・視力の発達を考慮した処方ができる。
授業担当者	太田　陸	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学　第3版（文光堂）、視能学エキスパート　光学・眼鏡（医学書院）、屈折異常とその矯正　改訂第7版（金原出版）	
評価方法	定期試験（筆記試験）で評価する	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	復習	屈折と調節（復習）
2	基礎知識	レンズ特性や収差について学ぶ。
3		眼鏡レンズ・コンタクトレンズの種類や特徴について学ぶ。
4		眼鏡・コンタクトに関連する眼科検査や屈折矯術について学ぶ。
5	眼鏡処方 （単焦点）	単焦点眼鏡処方の流れについて学ぶ。
6		眼鏡処方時の不同視や不等像視について学ぶ。
7	眼鏡処方 （多焦点）	単焦点眼鏡処方の流れについて学ぶ。
8		累進屈折眼鏡と二重焦点眼鏡の処方や明視域について学ぶ。
9	眼鏡処方 （年齢別）	成人の眼鏡処方について学ぶ。
10		小児の眼鏡処方について学ぶ。
11	眼鏡処方 （プリズム）	プリズム処方（膜プリズムの貼り方とプリズム合成）やプリズム効果について学ぶ。
12	コンタクトレンズ処方	ソフトコンタクトレンズ・ハードコンタクトレンズ処方の流れについて学ぶ。
13	頂間距離補正	眼鏡レンズとコンタクトレンズの度数換算について学ぶ。
14		眼鏡レンズの補正効果について学ぶ。
15	定期試験と解答解説	筆記試験にて知識の確認・解答解説

シラバスデータ		
科目名	ロービジョン医学Ⅰ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	障害受容の心理や地域社会におけるリハビリテーション職種としての役割について理解する。
学年	2年	
コース	―	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	・リハビリテーション職種である視能訓練士が担う保健医療福祉の推進について学ぶ。 ・視能訓練士が知っておくべき障害受容の心理や地域社会におけるリハビリテーション職種としての役割について理解する。 ・ロービジョンケアの具体的な手法について学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	・視覚障害の定義と範囲について説明できる。 ・ロービジョンケアにおける視能訓練士の役割を理解できる。 ・視覚補助具の使い方を説明できる。 ・拡大鏡の選定の方法や計算が出来る。
授業担当者	太田　陸	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学第3版(文光堂)、ポイントマスター！ロービジョンケア外来ノート（三輪書店）	
評価方法	筆記試験で評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ロービジョンの定義Ⅰ	ロービジョンの定義について学ぶ。
2	ロービジョンの定義Ⅱ	障害程度等級について学ぶ。
3	ロービジョンの推移	ロービジョン者の推移や原因疾患について学ぶ。
4	ロービジョンの実際Ⅰ	ロービジョンケアに必要な視能訓練士の基礎知識を学ぶ。
5	ロービジョンの実際Ⅱ	ロービジョン者の視機能評価について学ぶ。
6	視覚補助具Ⅰ	視覚補助具・日常生活用具について学ぶ。
7	視覚補助具Ⅱ	視覚補助具の選定について学ぶ。
8	拡大鏡Ⅰ	拡大鏡の種類、使用方法について学ぶ。
9	拡大鏡Ⅱ	拡大鏡の倍率について学ぶ。
10	遮光眼鏡	遮光眼鏡について学ぶ。
11	単眼鏡・拡大読書器	遮光眼鏡について学ぶ。
12	ロービジョン者の誘導	ロービジョン者の誘導について学ぶ。
13	ロービジョンケアⅠ	視覚支援施設の役割について学ぶ。
14	ロービジョンケアⅡ	視能訓練士ができる視覚支援について学ぶ。
15	筆記試験・解答解説	筆記試験と解答解説を行う。

シラバスデータ		
科目名	ゼミナール2	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	科目分類を行うことで国家試験勉強の土台を築く。 学生調書を作成することで臨地実習に備える。
学年	2学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期・後期	コラボ授業準備、国家試験過去問題の科目分類、学生調書の作成
授業回数	30回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	他学科とのコラボ授業の準備を行うことで、目指す職種を自分の言葉で説明できるようになる。 科目分類を行うことで、科目を意識して学習し、系統的に学ぶことができるようになる。 学生調書の作成することで、臨地実習での各自の到達目標を明確にし、自分の言葉で説明できるようになる。
授業担当者	村上　綾 鈴木　ほまれ	
実務家教員	○	眼科クリニック・総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能訓練士　国家試験過去問題、視能学第3版、臨地実習の手引き	
評価方法	学生調書の作成と中間試験にて評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1・2・3	国家試験対策	模擬試験
4	連携授業準備	コラボ授業準備
5		
6		
7	国家試験対策	国家試験と勉強方法について
8		国家試験過去問題の分類と分野別問題集の作成
9		
10		
11		
12		
13		
14		解答解説の効果的な方法と勉強方法について（復習）
15	臨地実習準備	臨地実習先の概要を調べて、自分の到達目標を考える
16		学生調書の作成
17		
18		
19		フローチャートの作成（学内で学んだ検査手技を確認）
20		
21		ケーススタディ（想定される問題をまとめる）
22	中間試験と解説	臨地実習に関するルールを確認する
23	実習後報告	臨地実習で得た知識・技術の共有と各自の成長を知る
24	就職支援	求人票の見方、就職活動の流れについて 就職試験に必要な知識（SPI、一般常識試験）について
25		
26		
27		
28		模擬就職活動と優先順位について
29		
30		

シラバスデータ		
科目名	弱視・斜視訓練学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視能訓練士として弱視・斜視の訓練方法および外眼筋手術の適応と術式を理解することを目的とする。
学年	2学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	・弱視・斜視の訓練方法と原理を学ぶ。 ・外眼筋手術の適応と術式を学ぶ。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	・光学的治療法、遮閉法、大型弱視鏡による訓練法、固視異常の訓練法の理論を理解し、適応症例を判断できる。 ・外眼筋手術の術式を理解し、適応、合併症について説明できる。
授業担当者	鈴木　ほまれ	
実務家教員	○	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版（文光堂）、視能矯正学　第3版（金原出版）	
評価方法	定期試験（筆記試験）で評価する	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	弱視視能矯正	弱視の定義と種類（復習）
2		弱視の治療方針について
3		遮閉法の種類と意義
4		
5		
6		
7		その他の弱視視能矯正
8	斜視視能矯正	斜視の種類と斜視治療
9		内斜視の視能訓練
10		間欠性外斜視の視能訓練
11		後天眼球運動障害の視能訓練
12		光学的視能矯正
13		非観血療法のまとめ
14	外眼筋手術	外眼筋手術に必要な解剖
15		術式と適応
16		
17		内斜視
18		外斜視
19		上下斜視
20		特殊斜視
21		
22		
23		麻痺性斜視
24		眼振
25		
26		非観血療法のまとめ
27		
28	ボツリヌス治療	ボツリヌス治療の適応と合併症
29		
30	定期試験解答解説	定期試験の解答解説

シラバスデータ		
科目名	視能検査学実習Ⅱ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・グループでの演習により視能検査学で学んだ検査の測定法について学ぶ。
学年	2学年	
コース	―	授業全体の内容の概要
開講時期	前期・後期	・視能訓練士が行う眼科一般検査を中心に知識・技術を学習し、グループでの演習により実践的な技能を身につける。　　また、検査結果の適切な評価の仕方も修得する。
授業回数	60回	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	・眼科一般検査の説明ができる。 ・眼科一般検査を実際に行うことができる。 ・結果を分析することができる。
授業担当者	星野　貴大 永井　理一郎	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学　第3版（文光堂）、眼科検査ガイド　第3版（文光堂）	
評価方法	実技試験、筆記試験で評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	（講義） 光干渉断層計 超音波検査 涙液検査 眼圧検査	Aグループ：光干渉断層計 Bグループ：超音波検査、涙液検査、眼圧検査
2		
3		
4		
5		Aグループ：超音波検査、涙液検査、眼圧検査 Bグループ：光干渉断層計
6		
7		
8		
9	（講義） 眼底写真撮影 色覚検査	Aグループ：眼底写真撮影 Bグループ：色覚検査
10		
11		
12		
13		Aグループ：色覚検査 Bグループ：眼底写真撮影
14		
15		
16		
17	（実技） 眼底写真撮影 光干渉断層計 超音波検査 色覚検査	ペアで互いの検査を行う。 ※常に眼科外来を想定しての実習となるため、言葉使い、患者説明等しっかり行うこと。 28コマ目までにレポートを提出（レポートが未提出の場合、実技試験は受験不可となります。） 実技チェック ①超音波検査、色覚検査、眼圧検査、涙液検査 ②光干渉断層計、眼底写真撮影
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28	実技試験	実技試験を行う。その後講評。
29		
30	筆記試験	筆記試験を行う。その後まとめ。

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
31	Goldmann視野計（異常視野） 網膜電図 角膜内皮細胞測定 レーザーフレアメーター （講義）	Aグループ：Goldmann視野計 Bグループ：網膜電図、レーザーフレアメーター、角膜内皮細胞測定、視力検査
32		
33		
34		
35		
36		Aグループ：網膜電図、レーザーフレアメーター、角膜内皮細胞測定、視力検査 Bグループ：Goldmann視野計
37		
38		
39		
40		
41	Goldmann視野計（異常視野） 網膜電図 角膜内皮細胞測定 レーザーフレアメーター 視力検査 （実技）	ペアでお互いの検査を行う。 ※眼科外来を想定しての実習となるため、常に言葉遣い・患者説明等しっかり行うこと。
42		
43		
44		
45		
46		
47		
48		ペアでお互いの検査を行う。 ※眼科外来を想定しての実習となるため、常に言葉遣い・患者説明等しっかり行うこと。 実技チェック ①Goldmann視野計、角膜内皮細胞測定 ②レーザーフレアメーター、視力検査、網膜電図
49		
50		
51		
52		
53		
54		ペアでお互いの検査を行う。 ※眼科外来を想定しての実習となるため、常に言葉遣い・患者説明等しっかり行うこと。 58コマ目の開始時にレポート提出（レポート未提出の場合、実技試験の受験不可）
55		
56		
57		
58	実技試験・講評	実技試験を行う。その後講評。
59	実技試験・講評	
60	筆記試験・解答解説	筆記試験と解答解説を行う。

シラバスデータ		
科目名	眼疾病学Ⅰ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	眼科の疾患について、基本的な知識を身につける
学年	2学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期・後期	眼科疾患及び眼科関連全身疾患について学習し、疾患の名称、病態を理解する。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	4単位	一般的な眼科疾患の名称、病態を理解する
授業担当者	星野　貴大	
実務家教員	○	総合病院・眼科クリニックにおける視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学　第3版（文光堂）、標準眼科学（第14版）（医学書院）	
評価方法	筆記試験により評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	角膜・結膜①	角膜・結膜疾患について学ぶ
2		
3	強膜・ぶどう膜①	強膜・ぶどう膜疾患について学ぶ
4		
5	ぶどう膜②	ぶどう膜疾患について学ぶ
6		
7	水晶体	水晶体疾患について学ぶ
8		
9	緑内障①	緑内障の総論について学ぶ
10		
11	緑内障②	緑内障の各論について学ぶ
12		
13	網膜・硝子体①	網膜剝離・硝子体疾患について学ぶ
14		
15	中間試験と解答・解説	筆記試験と解答・解説を行う
16	網膜・硝子体②	網膜循環障害について学ぶ
17	網膜・硝子体③	網膜黄斑部疾患について学ぶ
18		
19	網膜・硝子体④	網膜変性疾患・硝子体疾患について学ぶ
20		
21	視神経	視神経疾患について学ぶ
22		
23	眼瞼/涙器	眼瞼疾患、涙器疾患について学ぶ
24		
25	眼窩	眼窩疾患について学ぶ
26		
27	腫瘍/外傷/全身と眼	腫瘍、眼外傷、全身疾患と眼の関係を学ぶ
28		
29	まとめ	各疾患のポイントを復習する
30	試験と解答解説	筆記試験と解答解説を行う

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	就職指導		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	①　自分自身を客観的に知り、表現する方法を見つける。 ②　就職に必要な知識を養う。	
学年	2年		
コース	―	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	・就職活動は自分の仕事を中心とした人生（将来）を考え、設計する為の重要な役割を果たし、自己実現に向けた第一歩であることを理解させる。 ・自己を知り、敵（企業などの就職先）を知って、いかに自分を高く売り込めるかを学ばせる。 ・「講義」は与えられたものとして受け止めるのではなく、自分自身のものとして理解し実施していこうとする学習姿勢を重要視する。	
授業回数	15回		
授業形態	講義		
取得単位数	2単位	授業修了時の達成課題（到達目標）	
授業担当者	原木伴美	本授業では、「就職」というゴールに加え、学生が「キャリア自律」について理解することを目標とする。	
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	自作プリント参考文献(社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック（自己理解編・社会理解編）、イラスト図解！就職ワークブック、就職成功へのステップ)		
評価方法	授業態度、出席率、課題提出による総合評価とする。		

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容を理解し、自分を発信することを体験しよう。
2	働く意義を考えよう	働く意義や価値について知ろう。
3	自分の性格を知ろう	簡単な診断を使って、自分の性格や強みを知ろう。
4	性格と仕事の関係性を知ろう	自分の性格と向いている仕事について考えよう。
5	職業理解	自分の目指す職業の特徴を知ろう。
6	職場の環境と働き方について理解しよう	職場の環境や働き方の違いを理解する。
7	仕事に必要なスキルを考えよう	仕事をするうえで必要なスキルを理解しよう。
8	自己表現に向けて①	自己PRを作成して、他者に伝える方法を学ぶ。
9	自己表現に向けて②	履歴書の書き方を学ぼう。
10	自己表現に向けて③	志望動機を考えよう。
11	自己表現に向けて④	履歴書を書いてみよう。
12	職場の文化と人間関係を理解しよう	職場の文化や人間関係を学び、適応する方法を考える。
13	キャリアパスを考えよう	長期的なキャリア設計を考える。
14	面接の基本を学ぼう	面接の準備と実践を通じて自信が持てるようにしよう。
15	まとめ	授業を通じて学んだことを整理し、就職活動への意識を高めよう。

シラバスデータ		
科目名	視能検査機器学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・眼科医師や視能訓練士が関わる眼科一般検査を学ぶ。
学年	2年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	・種々の眼科一般検査の原理と目的を学習する。また、それぞれの機器の検査結果の分析、評価の方法を学ぶ。また、検査結果から眼疾病を同定できる専門的知識の理解を身につける。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	・種々の眼科検査の原理と機能を理解する。 ・眼科の専門職としての自覚と、職業倫理を理解する。 ・結果の分析から眼疾病を同定する理論を理解する。
授業担当者	中嶋　茂雄	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学　第3版（文光堂）・眼科検査ガイド（文光堂）	
評価方法	授業態度、出席率、筆記試験による総合評価とする。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	眼底検査	倒像鏡・直像鏡について学ぶ
2		眼底カメラの種類と眼底写真撮影手技について学ぶ
3		眼底写真撮影法・立体撮影・自発蛍光撮影について学ぶ
4		眼底写真の結果の読み取り方法について学ぶ
5		蛍光眼底造影検査（FA/IA）の原理について学ぶ
6		蛍光眼底造影検査（FA/IA）の結果の読み取り方法について学ぶ
7		光干渉断層計（OCT）の撮影法について学ぶ
8		光干渉断層計（OCT）の結果の読み取り方法について学ぶ
9		眼底検査と疾患のつながりを学ぶ
10		OCTアンギオグラフィについて学ぶ
11	眼窩画像検査	X線・CT・MRIの撮影原理と読み取り方について学ぶ
12	超音波検査	超音波検査の基本原理と検査方法について学ぶ
13		Aモード、Bモードの結果の読み取り方法について学ぶ
14	まとめ	これまでのまとめ
15	筆記試験と解答解説	筆記試験と解答解説を行う

シラバスデータ		
科目名	視能検査学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・眼科医師や視能訓練士が関わる眼科一般検査を学ぶ。
学年	2学年	
コース	ー	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・種々の眼科一般検査の原理と目的を学習する。また、それぞれの機器の検査結果の分析、評価の方法を学ぶ。また、検査結果から眼疾病を同定できる専門的知識の理解を身につける。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	・種々の眼科検査の原理と機能を理解する。 ・眼科の専門職としての自覚と、職業倫理を理解する。 ・結果の分析から眼疾病を同定する理論を理解する。
授業担当者	中嶋　茂雄	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学　第3版（文光堂）・眼科検査ガイド（文光堂）	
評価方法	授業態度、出席率、筆記試験による総合評価とする。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	外眼部検査	瞼裂幅測定・眼瞼挙筋機能検査・眼球突出度検査について学ぶ
2		外眼部撮影法について学ぶ
3		外眼部検査と疾患のつながりについて学ぶ
4	前眼部検査	角膜形状解析、ケラトメータ、プラチド角膜計について学ぶ
5		角膜形状解析の結果の読み取り方法について学ぶ
6		隅角検査、前眼部OCT、UBM（超音波生体顕微鏡検査法）について学ぶ
7		スペキュラーマイクロスコープ、角膜知覚検査、レーザーフレアメータについて学ぶ
8		細隙灯顕微鏡検査の観察方法について学ぶ
9		細隙灯顕微鏡検査の観察結果と疾患について学ぶ
10		涙液検査について学ぶ
11		前眼部検査と疾患のつながりを学ぶ
12	眼圧検査	眼圧検査について学ぶ
13	検査機器の扱い方について	検査機器の規格や安全管理、メンテナンスについて学ぶ
14	まとめ	前眼部検査、眼圧検査のまとめを行う
15	筆記試験と解答解説	筆記試験と解答解説を行う